一瞬の判断の過ちで 将来を失う匿名流動型犯罪

中学生も検挙される実態がある



上野　豊
（うえの ゆたか）

録画映像はこちら

学校現場での熱中症対策について

子どもたちの体力向上と暑さ対策について。

教育部長　各学校の校庭や体育館などに暑さ指数の測定機器を配置し、児童生徒の活動環境を継続的に確認しつつ、暑さ指数が31以上となった場合は、運動を伴う活動を中止し、冷房設備のある教室等で学習を行っている。

運動機会確保に向けた今後の方針について。

教育長　暑さを理由に子どもたちの学びや成長の機会を失わせることがないよう、学校現場と知恵を出し合いながら、柔軟に教育活動を工夫・推進していく。



中学生の匿名流動型犯罪対策について

各中学校における対策の現状について。

教育部長　結城南中学校で行われた講習会では、長期休業期間は様々なトラブルを抱えやすい時期であることや中学生も検挙される実態があることを踏まえ、結城警察署の協力のもと、闇バイトの危険性について周知した。また、日常の学校生活においても、注意喚起・周知啓発を行い、犯罪の危険性を意識するよう取り組んでいる。

情報モラル教育の現状について。

教育部長　若者がＳＮＳなどを利用する中で、闇バイトを通じて凶悪犯罪に巻き込まれる事案が深刻化しており、中学生での予防教育と早期アプローチは重要なものと認識している。「高額即日バイト」等の甘い言葉の裏にある罠や脅迫構造を学べる動画を活用した授業や、警察と連携した授業を行うなど、情報モラルに対する指導を行っている。

今後の環境整備について。

教育長　「居場所のなさによる孤立」や「将来への不安」を防ぐ施策が極めて重要である。早期に悩みをキャッチできる相談体制の充実、子どもたちが将来に希望を持てる教育活動を推進していく。

※一般質問の掲載記事は、発言議員本人からの寄稿によるものです。